

尚宣威王の墓

尚宣威は、第二尚氏初代王、尚円の弟です。1470年に越来王子となり、越来グスクに居城したと考えられています。尚円の死後、第二代王となりましたが、王としての神託を受けることができず、半年で退位し、尚円の子である尚真に位を譲りました。その後、越来に移り住んでまもなく死去したといわれています。越来集落の北西、比謝川沿いの崖にある墓が尚宣威の墓だと伝えられています。

殿内跡

尚宣威は越来で亡くなったと伝えられますが、長子の朝理は越来王子となり、娘は尚真王の妃となりました。朝理の子孫はのちに湧川殿内と名乗ります。湧川家につらなる一門が拝む「殿内跡」と呼ばれる拝所が今も越来に残されています。越来集落では、この一帯をトウンチヌスバ（殿内のそば）と呼んでいました。



尚宣威王の墓



殿内跡

西森公園の拝所

越来小学校から西に向かったところにある西森公園は、ニシムイと呼ばれる丘でした。『琉球国由来記』に越来村（越来集落）の拝所として名前が記されている四つの御嶽のうち、「西森」はニシムイに置かれていたと考えられます。現在は、「西森之御嶽」のほかに、越来中学校を建設するときに削られたウガンヤマに置かれていた3つの拝所がニシムイに移動されています。

ウガンヤマがあった場所

かつてのウガンヤマはうっそうと木が茂り、木や石を取ると祟りがあると恐れられていました。

『琉球国由来記』に越来集落の拝所として名前が記されている四つの御嶽のうち、「南風之嶽」「西之嶽」「大嶽」はウガンヤマにあったと伝わりますが、越来中学校の建設によって削られる以前の3つの拝所の様子は詳しくは伝わっていません。



西森公園の拝所



ウガンヤマにあった拝所が合祀されている



！注意！

越来グスク周辺は駐車場がありません。一方通行も多く道がたいへん複雑です。越来グスクや周辺地域においての際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

川畑家の白椿

尚泰久ゆかりの白椿がある家です。川畑家は越来の旧家の一つで、川畑家で育った尚泰久の子を見送るときに踊ったことから越来のウスデークが始まったという言い伝えもあり、現在でも八月十五夜のウスデークは川畑家の庭で踊ります。なお、白椿は「沖縄こどもの国」内の「ふるさと園」にも移植されていて、そちらでも見ることができます。

イシガー

川畑家の前にある井戸です。昭和3年に、水汲み用のポンプがついた汲み口が二つ設けられたので、ターチューガー（二つ井戸）とも呼ばれています。越来の人々は、元旦の若水や、赤ちゃんが生まれたときの産湯の水をこの井戸から取りました。なお、地図中のマークは井戸をあらわしています。今は井戸から水を汲むことはなくなりましたが、現在でも年中行事や健康祈願などで拝まれています。



川畑家の白椿



イシガー

ヌンドウンチャーの拝所

現在でも、越来集落の伝統的な年中行事の際に拝まれている拝所です。ヌンドウンチとは、普通、ムラの祭祀を司る最高位の神女を出す家のことを指す言葉です。しかし、越来のヌンドウンチャーには戦前から家屋敷はなく、拝所だけがあつたそうです。越来のウスデークは川畑家の次はヌンドウンチャーに来て踊りを終えます。

越来グスクの拝所

『琉球国由来記』に「越来城殿」と記されている拝所だと考えられています。戦前の様子については詳しいことはわかっていませんが、越来グスク内に3か所の拝所があつたという聞き取り調査の資料があります（『山城善三原稿・中頭調査（五分冊の三）』）。1945年に越来グスクが切り崩されたときに拝所も失われましたが、1955年に再建され、その後、改築を経て現在の拝所となっています。



ヌンドウンチャー



越来グスクの拝所